

## 式辞

本日ここに、皆さんが高校での学びを終え、卒業生として送り出せることを大きな喜びと誇りに思います。今日まで支えてこられた保護者の皆様とともに、心よりお祝い申し上げます。

本日は、ご多用の中、網走市長 水谷 洋一 様、定時制振興会会長 佐々木 博 様、黎明会会長 米村 喜和 様をはじめ、多くのご来賓の皆様にご臨席を賜りました。厚く御礼申し上げます。

皆さんは、それぞれの思いを抱いて南定の門をくぐりました。期待だけでなく、不安や迷いを抱えていた人も多かったことでしょう。それでも皆さんは、前に進むことを止めませんでした。うまくいかない日。気持ちが前を向かない日。学校に来るだけで精一杯の日。それでも登校し、席に座り、通い続けました。その一日一日が、今日という日につながっています。

南定での学びは、教室の中だけではありませんでした。

学校祭では、生徒会が中心となり準備や日々の声かけを通して、誰もが安心して過ごせる雰囲気をつくってきました。前に立つ人だけでなく、支える人が自然に動き、互いに気を配り合う積み重ねが、南定らしいあたたかな空気を生み、地域の方や保護者の皆様が数多く来校され、校舎が笑顔と会話で満たされました。あの日の学校は、「自分たちの居場所を自分たちの手でつくる」皆さんの力を、はっきりと示していました。

部活動では、限られた時間の中で力を合わせ、全道・全国の舞台にも挑みました。結果はもちろん立派なものですが、それ以上に価値があるのは、仲間と励まし合いながら続けてきた時間です。一人では難しいことも、仲間となら乗り越えられる――その経験を、皆さんはここで手にしました。

生活体験発表大会では、自分の歩みを言葉にしました。過去と向き合い、人に語ることは簡単ではありません。それでも皆さんは、自分の言葉で伝えました。その言葉は、聞く人の心を静かに動かししました。確かにここに、一人ひとりの成長がありました。

南定では、互いの違いを認め合いながら居場所をつくってきました。先輩が後輩を支え、誰かの頑張りを皆で喜ぶ。この温かさこそ、南定の誇りです。

これから先、思うように進めない日や、立ち止まってしまう日もあります。

大切なのは、自分の歩くペースを見失わないことです。焦らなくていい。比べなくていい。止まらなければ、前に進んでいます。南定での日々は、皆さんに「人は変わる」という確かな実感を残したはずです。ここで重ねてきた歩幅を忘れず、それぞれの場所で歩み続けてください。

保護者の皆様、これまで本校の教育活動に深いご理解とご協力を賜りましたこと、厚く御礼申し上げます。卒業後も、本校への変わらぬお力添えをいただければ幸いです。

結びに、卒業生の皆さんの前途を心から祝し、これからの歩みを応援するとともに、ご臨席の皆様のご健勝を祈念し、式辞といたします。

令和8年3月1日 北海道網走南ヶ丘高等学校長 與田 顕規